

会 議 録

会 議 の 名 称	平成30年度 第3回 新座市青少年問題協議会
開 催 日 時	平成31年3月27日(水) 午後3時30分から 午後5時まで
開 催 場 所	新座市役所本庁舎5階 全員協議会室
出 席 委 員	須田邦彦会長・牛山孝儀副会長・助川昇委員・辻実樹委員・ 木村俊彦委員・佐藤重忠委員・田野信哉委員・斉藤宗夫委員・ 嶋野加代委員・宇原悦子委員・長谷川栄委員・結城美千代委員・ 栗原貞一委員 計13名
事 務 局 職 員	教 育 総 務 部 渡辺哲也部長 生涯学習スポーツ課 金子啓一副部長兼課長 小糸克己副課長兼スポーツ・青少年係長 藤田智美主任・天倉美希主事 向山千景主事・福田真帆主事
会 議 内 容	別紙のとおり
会 議 資 料	1 次第資料 2 平成30年度新座市青少年問題協議会名簿
公開・非公開の別	① 公開 2 一部公開 3 非公開 (傍聴者 0人)
そ の 他 の 必 要 事 項	欠席委員 金子廣志委員・宮敦子委員・右田勉委員・岡田雅人委員・ 西川達男委員・鈴木松江委員 計6名

審 議 の 内 容 (審議経過、結論等)

1 開 会 (司会：事務局)

2 挨拶 (須田会長)

3 議 題

(1) 意見具申テーマの決定について (説明：事務局)

発 言 者	内 容
会 長	事務局で案をまとめたので、まずはテーマ(案)1について、皆さんの意見を出してほしい。
委 員	この会議で何回か、プレーパークや子ども食堂などが話題に出ているが、そのような事業をどの団体がどう担っていくかが重要である。テーマ(案)1であれば、どういう団体がどういうふうになら青少年の「環境づくり」を受け止めていくのが大事だ。その点で、ボランティアをやるにしても、例えば学校の中にふれあい地域連絡協議会(以下、「ふれ協」という。)などのボランティアが入って行って、中学生と地域をつなげていく場を作ることが必要だ。そうしないと、結局どこがやるのかということになって実現が難しい話になっていく。
会 長	テーマ(案)2や3についてでもよいので、意見を出してほしい。
委 員	どのテーマ案も良いと思う。テーマを決めるのであれば、例えば挙手で決をとって、それについて修正を加えていくという進め方が良いのではないか。1つずつ意見を出していても、皆さんから良い意見が出るので、決まらない。
会 長	まずはいろいろな意見を聞ければと思う。今日決定しなくてもよいのではないか。
事 務 局	本日の議題が意見具申テーマの決定なので、スケジュールどおりに進めるのであれば、テーマを決定していただきたい。
会 長	テーマを決定するにしても、意見を出していただきたい。いろいろな意見が出た中で、1つに絞れるのであれば絞りたい。
委 員	どれも良いと思うが、今までもそうであったように、具体的な施策をどう推進するのが問題である。個別的施策のほうが大事だ。それがないとテーマ(案)2にも3にもつながらない。 来年度から中学生の部活動が希望制になる。部活動をやらない子が活躍できる地域での環境づくり、受け皿が必要だ。 部活動をやらない子は勝手に活動しなさい、ということではなく、ここに書かれているように、「コーディネート」など地域にどうつなげていくか、というところに重点を置いていきたい。 テーマとしては、「環境づくり」が大事だと思う。

委員	<p>前回の会議で出た意見の中で、町内会に入る人が少ないとか、子どもが地域活動に参加できるようにしたいというのが印象的だった。例えば、町内会の活動に参加するにはどうしたらよいか、という具体的な施策はどのテーマに入るのか、と疑問に思った。テーマだけを見てどれにするか決めるよりも、具体的な施策を充実させる中で、テーマを決めていくのが良いのではないか。</p> <p>学校としては、部活動が希望制となったとしても、部活動を大事にしたいという思いがあるようだ。やらなくてもよいというわけではない。部活動をやると意味は大きい。地域活動をするということで部活動をやらないのならよいと思うが、家庭の中での問題、例えば放っておかれているなどが原因となってやらない、ということも少なくないのではないか。単なる受け皿というだけでなく、そういった事情も含めて、環境が作れると良い。</p>
委員	<p>テーマ案の中の、「環境づくり」という言葉が良い。大人が子どもの活動を作っていないといけない。大人に何が出来るか。</p> <p>テーマ（案）1が気に入っている。テーマ（案）2の「自ら考え」という言葉もこれからの日本のことを考えると良いと思う。例えば、「自ら考え行動できる青少年を育成するための環境づくりについて」とするのも良いかもしれない。決をとってもよいが、今回は1つに絞らず、具体的な施策について検討し、どのテーマにするかは次回検討する、というやり方でもよいのではないか。会長に任せるが。</p>
事務局	<p>本日欠席の委員から、事前に意見を頂いているので紹介する。 ～以下、委員からの意見～</p> <p>提示された3つの案のうち、私はテーマ（案）3及び2のどちらも良いと思う。一人ひとりの青少年が自分の良さや可能性を認識するとともに、あらゆる他者の価値ある存在として尊重し、多様な人々と協働しながら豊かな人生を切り拓いてほしいという私たちの願いを表現しているのは、この2つのテーマであると思う。学校教育においても「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けての教育改革が求められている。これからの教育は、知識を習得するだけでなく、思考力・判断力・表現力や学びに向かう力を育成していくことが重要である。</p> <p>そうした状況から見ても、2つのテーマ案はどちらも良いと思う。</p> <p>青少年が自分の力を信じ、地域社会との関わりを持ちながら成長していくために、ボランティアの視点は欠かせないと思う。青少年のボランティアが形となって残るような「ボランティア手帳」の作成ができればと思う。</p>
会長	<p>テーマ（案）2及び3が良いのでは、とのことである。文言は変えることができる。それを踏まえて皆さんの考えを伺いたい。</p>

委員	<p>テーマ（案）２が良い。部活動に参加しない子が、全員同じ行動をとるとは思えない。勉強がしたいからとか、何もしたくないからとかいろいろな理由が考えられると思う。それを全て把握して対策をするは大変だ。町内会にばかり要望するのもよくない。町内会には町内会の役割がある。町内会の中でいろいろな方向性を考えて、その中に青少年に関する施策があるのならよいと思うが。</p> <p>最初に柱を作って、そのためにどうすればよいかを考えるのが良い。</p>
委員	<p>市からの町内会への助成金がカットされ、広報をシルバー人材センターが配布することになった。それにより、町内会の存在価値が崩れたように思う。それを放置すると町内会の存亡の危機となるので、何かしなければということで、いくつかチャレンジをした。その１つが、地域として子どもにどう関わるか、ということである。子どもに関わると、そのお父さんやお母さん、おじいさん世代の方も含めて関わることができる。若い世代が関わってくれたので、ホームページを開設したり、子ども食堂が実現したりした。文化部として、気の合う大人５人程度でおはじきや編み物、カラオケやお茶会をするのも良かった。</p> <p>町内会からの助成金の配分を変え、広く薄く行き渡るようにした。それに対する反応が意外に良く、そのように変えてから今年で３年目である。あるグループは琴を教えているが、子どもに声をかけたら小学生７人ほどが集まった。その小学生の家族が集まり食事をする中で、アトラクショナルに琴を弾かせたが、とても良かった。年に１回発表会をしている。夏休みの宿題については地元の大学生に面倒をみてもらったり、大工をしている人には木工をやってもらったりした。きっかけをつくれれば、町内会としても関われる場ができる。糸口が見つかったように思う。</p> <p>部活動をしないうちが出てくるというのは、昭和の人間からすると寂しく感じる。部活動をとおして学ぶ上下関係や友達づくりなど、いろいろメリットがある。選択制になることは良いと思うが。良いものは残せるように地域で関わっていきたい。</p>
会長	<p>「自ら考える」という行動は、いろいろな体験からも生み出せる。</p>
委員	<p>テーマ（案）２が良いが、「環境づくり」に重点を置くべきだと思うので、「環境づくり」をテーマに入れたほうが良い。</p>
委員	<p>「環境づくり」とあるが、各町内会でいろいろな問題を抱えている。どのようにして環境づくりをしていくのか。誰かがやれば良いが、やる人がいないのが問題である。</p>
委員	<p>町内会によってできることには幅がある。先ほど紹介したのは一つの例である。</p>
委員	<p>いろいろな考えがあると思うが、事業を担う組織として考えられるのは、例えば地域福祉推進協議会などである。今ある組織と連携して実施するなど、いろいろな形が考えられる。</p>

委員	<p>資料3 ページに既存事業例があるが、学校応援団なども考えられる。市内の子どもの見守りなどをしてきているが、町内会など他の組織との横のつながりがあまりないように思う。</p> <p>例えば、通学路の危険な箇所に見守りの人がいるかないか、学区によって差がある。個人的に、私の地域は交通指導員のみで、他の見守りの人は見かけないように感じる。他の学区にはたくさんいるのに、なぜ違いが出るのか。校長や地域の雰囲気関わっているのだと思う。私のイメージとしては、学区を越えた交流の中でヒントをもらって、地域の支援活動を全体的に底上げできると良いと思っている。</p>
会長	<p>環境と言ってもどんな環境を作るかである。民生委員で、新座中学校や野火止小学校で花を植えたり、植木の手入れをしたりしており、シラコバト賞や教育ふれあい賞をもらったりした。何をするにも指導者がいないといけない。勉強であれば大学生など、的を絞っていけば見つかるのではないかな。</p>
委員	<p>先ほど意見に出たが、ふれ協の活動があまり見えてこない。朝のあいさつ運動をしていることは知っているが。活動にテコ入れするなど、活性化させることが必要なのではないかな。学校の枠を超えたつながりは、地域のつながりにつながる。ふれ協の存在価値を見直す時期なのではないかな。</p>
委員	<p>第四中学校区のふれ協は、花火大会を開催している。私はばわーあっぷくらぶに協力しているので、会合に呼ばれて話をする機会があるが、良い雰囲気のグループである。同時にコミュニティスクールの学校運営協議会委員をしているが、県の研修などで、コミュニティスクールの中には学校運営協議会と地域学校協働本部というのものを作ることになっているようで、三鷹市の事例を紹介していた。地域学校協働本部は、新座市で言うふれ協に当たるようである。学校の中でふれ協が活躍できるようにすれば、きちんとした教育ができる。学校応援団もきちんと活動しているし、ふれ協や町内会などがつながっていけば、もっと情報共有が図れる。</p> <p>第四中学校区内の町内会は、それぞれの活動にあまり差はない。ふれ協同士でも情報共有ができれば、盛り上がっていくのではないかな。</p>
委員	<p>子どもが地域とどうつながるかが重要だ。地域というのは活動が見えにくい。市内でも、町内会連合会、地域福祉連絡協議会、自主防災会、学校運営協議会など、いくつも会議体があって大変だ。どれを軸にするかが難しい。もう少しすっきりと、一本化したほうが良いと思っている。</p>
会長	<p>テーマ（案）2では、どんな支援が考えられるか。</p>
委員	<p>いろいろな意見を聞いて勉強になった。教育面の環境についての意見が多く挙げられていたが、生活面、家庭環境ありきでの教育であると思うが、どうか。</p>
会長	<p>テーマ（案）2についての意見をお願いしたい。</p>

委員	「支援」という言葉を「環境づくり」に変えてはどうか。青少年が地域のためにやれることもたくさんあると思う。地域との接点を持つことができれば、逆に青少年がボランティアとして福祉を支える側にもなると思う。テーマ（案）2を軸にするのが良いとは思いますが、「支援」という言葉は上から目線のように感じる。「環境を整える」というような言葉を使ったほうが良い。
委員	テーマ（案）2が良いと思う。「支援してあげる」というふうに捉われ兼ねないので、「環境づくりについて」に変えたほうが良い。
会長	先日小学校の卒業式に出席したが、一人ひとりの将来の夢を発表していた。最近はスポーツだけでなく、夢も多様である。将来の夢は変わるかもしれないが、目標として発表するのは良いことだ。事務局としては何かあるか。
事務局	今までの意見をまとめると、テーマ（案）2に絞るという意見が多かった。 また、意見があったとおり、この案の「支援」という言葉を「環境づくりについて」に置き換えてはどうか、と考える。
会長	委員の皆さんはいかがか。
委員	ボランティア手帳を作成して、子どもがボランティアをしたら町内会で活動を証明する判子を押すように調整してもらってはどうか。
委員	町内会に調整をしてもらおう、とのことだが、活動が活発な町内会はそういったこともできるかと思うが、そうではない町内会もあると思う。高齢者を対象とした活動を活発に行っている町内会もある。町内会に丸投げということではなくて、青少年支援の環境づくりの1つとして、町内会にも協力いただけたら、という方向で考えたほうが良いのではないか。一方的に町内会に任せる、というのは良くない。
委員	町内会は町内会として担うべき役割がある。頂いた意見を持ち帰って発信しようとは思いますが、それぞれどんな捉え方をするかは各町内会の判断による。テーマをどうするかよりも、それを現場がどう捉えて具現化していくかが大事だ。テーマ案はどれも捨てがたい。それをいかに広めるかである。テーマ（案）2を中心に絞るのが良いと思う。
委員	テーマ（案）2の言葉が好きだ。素敵なテーマだが、よく考えると、自ら考え行動することはとても難しいことだ。これをテーマとして掲げた場合、ぼんやりしたテーマになってしまう。もう一段階噛み砕いたものをテーマにしたほうが良い。大人でもなかなかできないことだ。 具体的施策については、より具体的に提案しないといけない。
委員	テーマが大きすぎるということだが、「環境づくり」という部分については、町内会やその他の団体が実施するものとして捉えてしまうと大きく感じるが、例えば家庭の中で茶碗を取って来るとか、基本的なことなら子どもたちはやっているはずだ。私は決して大きいテーマだとは思わない。

委員	<p>そもそも本会議は、各家庭の在りようではなく、市として何ができるか、ということをも市長に具申するものである。実施主体はどうかとか、学校や町内会などに向けてこんなのをやってみようか発信しようと思ったときに、テーマを具申するのがこの組織の役割である。</p>
委員	<p>家庭に対しても、例えばチラシ1枚で啓発できるし、それを言ってしまったらいけないと思う。そういう意味合いで発言した。</p>
会長	<p>数年前の会議でも、ボランティア手帳の話がでた。結局そのときは具申書の内容には盛り込まなかった。誰がその施策を担うのかとなると、問題が出てくる。新しいことをするのは難しいが、それでもよければ具申案に盛り込んで良いと思う。せっかく具申しても前のことは忘れられてしまう。 テーマ案から1つに絞ったほうが良いのか。</p>
事務局	<p>スケジュール上は絞ってもらってほうが良い。ただ、先ほどこの資料上の施策をもっと具体的にしたほうが良い、という意見もあったので、改めて作り直し、次回会議で絞っていただくことでもよい。</p>
委員	<p>3つの案があり、テーマ(案)2が良いという意見が多かったが、前回会議での意見と照らし合わせると、テーマ(案)1は「体験型」、3は全体的に「地域と子どものつながり」というイメージができるが、テーマ(案)2はどんな意図から作ったものなのか。</p>
事務局	<p>前回・前々回の会議で、「子どもは自ら動くのではなく、大人が促してあげないと動けない」という意見があった。 また、新しい学習指導要領にも、「主体的に考える子どもの育成」という方針があったので、提案した。具体例では、「ボランティア手帳の作成等」を挙げた。例えば、子どもがボランティアをすれば手帳に判子が押されるということを認識し、それを糧とすることで、自ら行動することにつながるのでは、ということで作った。</p>
委員	<p>承知した。前回会議で、「自己肯定感」についての意見があった。私もその意見に共感している。いろいろな統計や報道を見ても、今の子どもたちは自己肯定感が低いということがあったので、私自身気にかけていた。具体的施策に自己肯定感という言葉は入れないとしても、そういった意味合いの施策を入れてほしい。</p>
会長	<p>いろいろな意見が出たが、具体的施策に肉付けをしないといけない。事務局でもう一度まとめてほしい。</p>
委員	<p>「自ら考え行動できる青少年を育成するための環境づくり」のイメージができない。どんな環境を作ってあげられるのか想像できない。ボランティアを促進するというのが、その環境に結びつかない。私のイメージでは、「自ら考え行動する」ということは、家庭で、長い時間をかけて親から子に伝えていくものだと思う。</p>

委員	<p>今までの話を聞いて、多くの子どもたちと関わっている身としては、皆さんが真剣に考えてくださっていて本当にありがたい。「自ら」というのは、学校としても大きなテーマであり、私の学校でも「自分から」というのを子どもたちの目標に掲げている。自己有用感を高めていかない限り、子どもたちは物事を「やらされる」という感覚でいると思う。これではだめだ。子どもたちが考えてしたことを受け止めて、どんどんほめていこうと思っている。それによって自主的な活動が生まれてくる。</p> <p>いろいろな調査でも、自己肯定感が高い子どもは、学力が高いという結果が出ている。そのような子どものベースは家庭にあって、帰宅後に母親との会話が多いという統計もある。これは、10年以上前から言われていることである。その結果を見て、学校で何ができるかと考えると、それぞれの行動を認めていこう、ということになった。家庭や教員がやらなくてはならない部分を地域という広い範囲の中で皆が支えてあげることによって、子どもは地域が好きになり、この地域で生きていこう、という意識に結びつくと考えている。</p> <p>そう考えていた矢先に、子どものふるさと新座館の使い方が悪いという市民からの連絡が入った。春休みに入った頃だったので、子どもが地域に出て行き、他に遊べる施設がないのでふるさと新座館に殺到し遊んでいたところ、地元の住民が公民館を使えなくなってしまったという連絡だったようだ。地域との関係性も難しい。</p> <p>先ほどのふれ協の話にもあったが、第二中学校区のふれ協はしっかり活動しているが、基本的には前年踏襲で、新たな取組はなかなか難しい。地域のコミュニティやボランティア協力者が高齢化しており、今後は活動できないと言われるが、次の代がなかなか育たない。</p>
委員	<p>今の意見のように、学校や家庭など、いろいろな場がある。ひとまず1つのテーマに絞り、それに向かって具体的にどうしていけば実現するかを考えたほうが良い。</p>
委員	<p>今日はテーマを絞って、具体的施策への肉付けは次回検討していくということではよいのではないかと。</p>
会長	<p>まとめると、テーマ（案）2に絞るのがよいのではないかとと思うが、いろいろな意見が出ているのでなかなか決められない。</p>
委員	<p>テーマを絞り、個別的施策への肉付けは次回でよいと思う。</p>
会長	<p>いろいろな意見が出たが、今の世の中を考えると、家庭環境を良くするようなテーマが良いと思うが、そうになると、絞るのが難しい。</p> <p>大和田小学校では大根作りをしている。体験学習も非常に大切である。</p>
委員	<p>これまでの意見を聞いて、私自身、きちんと理解できてなかったのが分かった。テーマ（案）2が良いと思う。その中で、家庭としてはこう、学校としてはこう、地域としてはこう、という施策があれば、まとまるのではないかと。</p>
会長	<p>それでよいと思う。事務局のほうでまとめられそうか。</p>
委員	<p>今の意見があったので、テーマはある程度決めてしまっていて、今日話した内容を事務局に集約してもらい、次回の会議に提出してもらおう、ということではよいのではないかと。</p>

全 員	賛成。
事 務 局	<p>テーマ（案）2に絞るということなので、自ら考える、自己肯定感、積極的に自分で作る、前に進むというイメージで、事務局としても良い案だと思っている。</p> <p>ただ、「支援」という言葉は自然ではないという見方もあるので、その部分を「環境づくり」に変えて次回会議で改めて提案する。</p> <p>具体的な施策についても、地域、学校、家庭という考え方をすると、それぞれボランティアの施策につながっていくので、広く展開できるような資料を作成し、次回提案する。</p>
委 員	<p>自ら考え行動するというのは、遊びの中から学ぶものだと思っている。今の子どもは与えられたものがたくさんあり、さらに与えようというのであれば、それは違うと思う。先ほど意見があったが、自ら考え行動したときに、大人がそれを制止することがある。子どもはうるさい、子どもは壊すものだと思ってくれる大人がたくさんいれば、自ら考えて行動できるのではないかと思う。そういった環境づくりをしてもらえると良い。</p>
委 員	<p>中学生だけでなく、子どもたちにはいろいろなイベントに協力してもらっているが、力仕事をまかせるばかりで終わることが多い。そうではなく、自分たちで考えるところから携わってもらえれば、力を発揮すると思う。そういう意味では、子どもに自ら考え行動しろと言うのではなく、それを阻止する大人側の課題も、この施策に盛り込めると良い。</p>
委 員	<p>非行や薬物の使用が低年齢化している。いじめは昔からあり、時代が変わっても存在し続けている。そのような中で、非行がなるべく少なく、自分で良いこと、悪いことが判断できるようになると良いと思い、テーマ（案）2が良いと思っていた。</p>
会 長	<p>ふれあいルームには学校に行かない子どもたちが少なからず来ていて、学校を怖く感じるなど、精神が弱くなっている。いろいろな問題を抱えている。</p>
委 員	<p>非行少年と関わることが多いが、自由な行動の中では問題行動も起きるし、良い行動も起こすし、いろいろ含めて地域の大人が受け止めて理解していくと、極めて悪いことはしない。年月が経つと、そういう子は地域に戻って来る。地域の中に受け止める大人がいることで、将来が変わる。</p>

(2) その他

事務局 次回の会議は、来年6月頃を予定している。

4 閉 会（牛山副会長）